

愛知県 中高一貫教育導入方針（案）

1 中高一貫教育導入の経緯

- 愛知県では、入学者選抜を行わず同一の設置者により中学校と高校を接続した教育を行う「併設型中高一貫教育」については、2015年3月に策定した「県立高等学校教育推進基本計画（高等学校将来ビジョン）」において、「生徒の個性や創造性を伸ばす・・・併設型中高一貫教育校について研究する」としていたが、具体的な進捗はなかった。
- ビジョン策定後、2016年度から県立高校の欠員が徐々に増加し、2021年度には2,600人を超えるなど、県立高校を取り巻く状況が大きく変わった。また、2035年には中学校卒業見込者の数が現在の7万人から5万7千人へと、約2割、減少することが見込まれた。こうした県立高校の置かれた大きな状況の変化を踏まえ、2021年12月に「県立高等学校再編将来構想」を策定し、県立高校の魅力化・特色化、再編に向けた取組を進めていくこととした。
- 再編将来構想の策定に当たっては、県立高校長、市町村教育委員会教育長など関係の方々と幅広く意見交換を行い、その中で、併設型の中高一貫校の設置について提案があったことから、中高一貫教育制度の導入の可能性について検討した。そして、高校から導入に強い関心があり、地域の教育関係者から導入の検討に一定の理解を得られた、明和・津島・半田・刈谷高校の4校を、2022年4月6日に、探究学習を重視するタイプの第一次導入候補校として検討を進めることを発表した。なお、併設型中高一貫校は、41都道府県で設置されている状況であった。
- 検討に当たっては、5月に教育関係者による「中高一貫教育検討部会」を設置して、本県における中高一貫教育制度の導入について本格的に検討を進め、5月から7月まで3回の検討部会を経て、7月26日に、明和・津島・半田・刈谷高校の4校を第一次導入校として決定した。また、明和高校には、公立の中高一貫校では全国初となる併設中学校に音楽コースを設置することとした。
- その後、9月から11月まで3回の検討部会で第二次導入候補校について検討を進めた。第一次導入校と同様の探究学習を重視するタイプについては、地域バランスを考慮し、三河地域に、豊田西・時習館・西尾高校の3校を追加設置することについて検討した。また、不登校経験者や外国にルーツのある生徒が能力や可能性を伸ばすことができる学校、中学校や地域の様々な人たちと連携協力しながら中学校と高校が接続した教育を目指す新しいタイプの地域連携型の学校、さらにはDX（デジタルトランスフォーメーション）を先導する高度なものづくり人材を育てる学校など、地域の教育ニーズに応える、愛知らしい中高一貫校についても同時に検討を行った。
- そして、こうした検討を経て、探究学習重視型3校、地域の教育ニーズ対応型2校、高度ものづくり型1校を、第二次導入校として追加決定した。
- 第一次・第二次導入校の決定を踏まえ、「愛知県 中高一貫教育導入方針」を定めることとした。

2 中高一貫教育導入のねらい

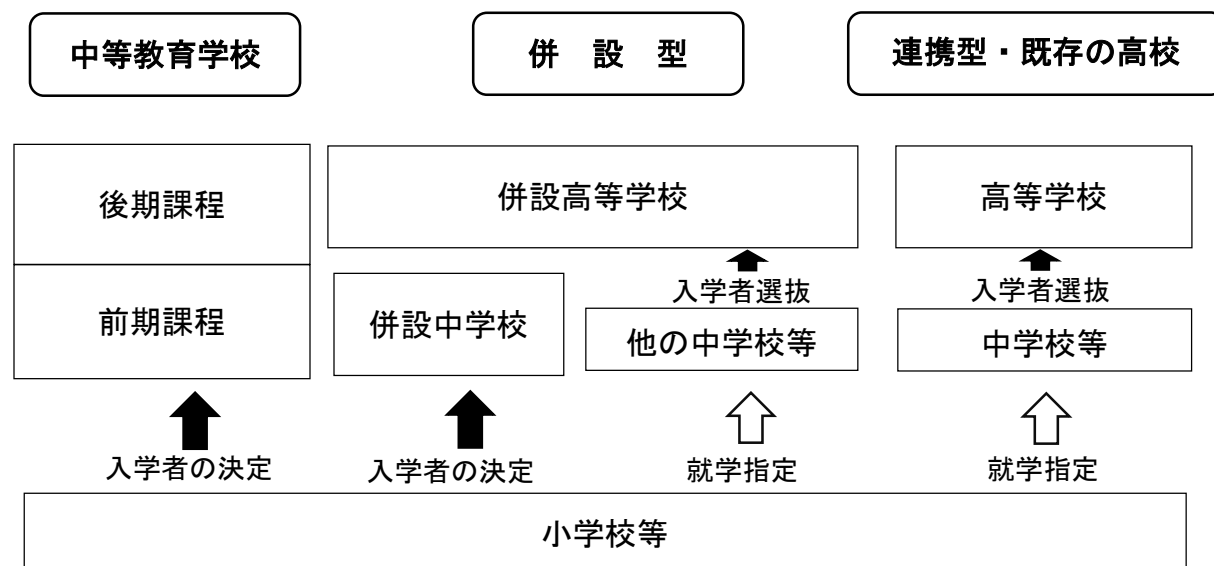
チェンジ・メーカーを育てる
～ 自分らしさの探究と創造・チャレンジ ～
～ 一人一人異なる個性をもつ子どもたちの可能性を最大限引き出す学びの実現 ～
～ 誰もが社会の変革者となる学びの推進 ～

（趣 旨）

- 現在の社会は加速度的に変化し続けており、将来の予測が極めて難しい時代となっています。
- このような社会や時代においては、様々な人と協働しながら、答えのない課題に対して、失敗を恐れずにチャレンジし、社会に変化を起こす「チェンジ・メーカー」になっていくことが求められています。
- また、将来の予測が難しい時代においては、一部の人だけが「チェンジ・メーカー」となるのではなく、これからの時代を生きていく全ての人が、「チェンジ・メーカー」として、それぞれの個性や能力を発揮し、様々な場面で変化を起こすことが必要となります。
- 本県で、今後導入する様々なタイプの中高一貫教育では、ゆとりのある計画的・継続的な教育や、地域の方々との活動を通して、一人一人異なる個性をもつ子どもたちの可能性を最大限に引き出し、伸ばす学びを進めていきます。そして、子どもたちが、将来、困難に遭遇した時、「この学校で、この仲間たちと、この先生たちと、この地域の人たちと、一緒に学んで良かった」と思えるような学校づくりを進めていきます。

(参考1) 中高一貫教育の実施形態

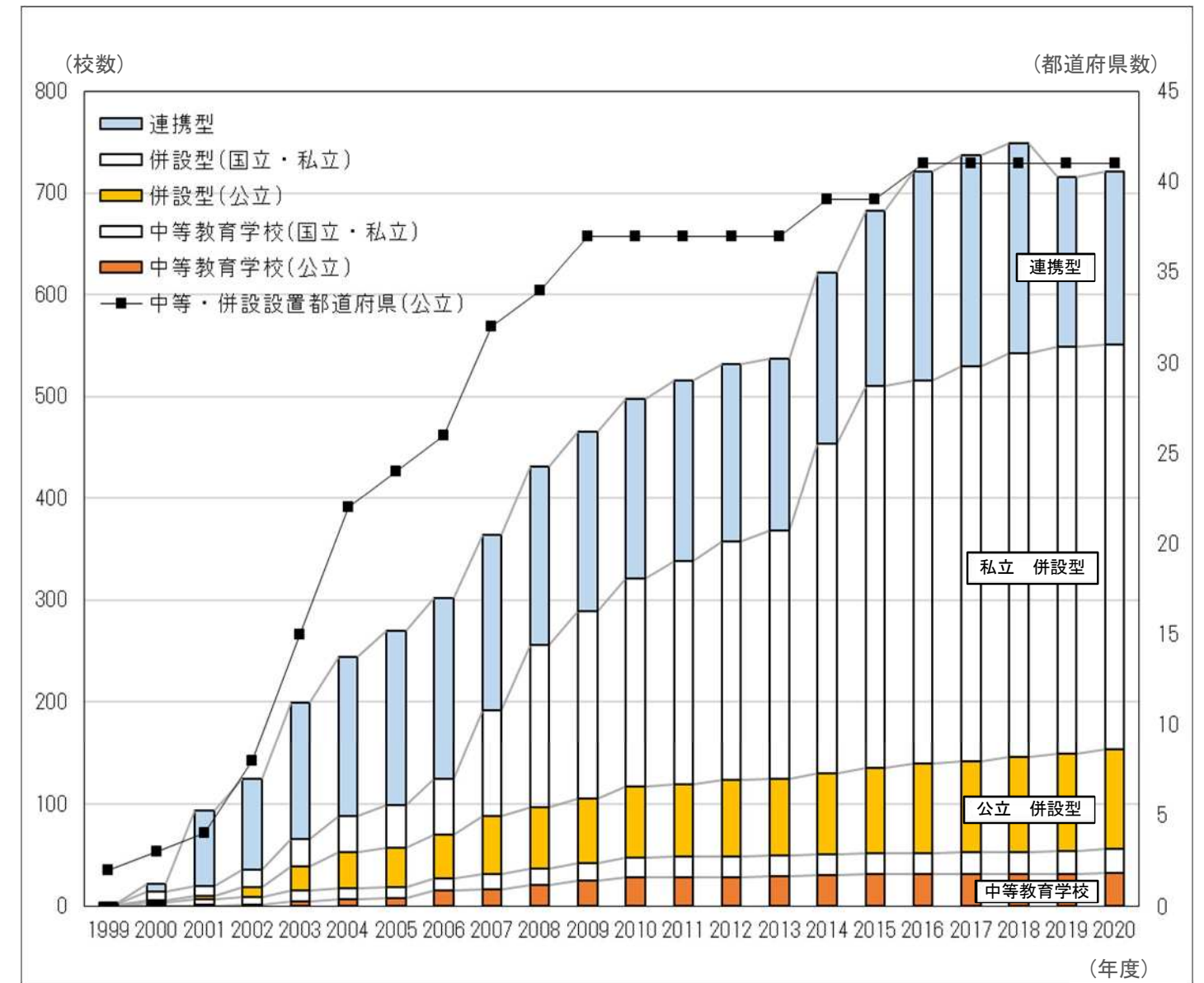
類型	内容
中等教育学校	一つの学校として、一体的に中高一貫教育を行う。
併設型の中学校・高校	高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続する。
連携型の中学校・高校	市町村立中学校と県立高校など、異なる設置者間でも実施可能な形態で、中学校と高校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める形で中高一貫教育を実施する。 ※本県の例：県立福江高校(田原市)⇔福江中学校 県立新城有教館高校作手校舎(新城市)⇔作手中学校 県立田口高校(設楽町)⇔設楽中学校、津具中学校 東栄中学校、豊根中学校



(参考2) 中高一貫教育 全国の設置状況 (2020年度)

併設型を中心に、設置校数が増加傾向にあり、41都道府県で、公立の中等教育学校または併設型を設置している。

未設置：富山、岐阜、愛知、三重、鳥取、島根



探究学習重視型 中高一貫校の概要

＜第一次導入校＞ 2025年4月開校（2022年7月26日発表済） ※タイプ欄の□囲み番号は、次ページ以降の各校導入プランの番号を示す

タイプ	地区	学校名 (所在地)	1学年学級数		現在の高校における取組、特色	導入のイメージ
			中学校	高校（現在）		
□ SSH実施校	名古屋	明和高校 (名古屋市東区)	普通コース 2学級 80人	普通科 8学級	都市に起因する現象や課題などをテーマに、大学、企業、行政と連携して科学技術リーダーを育成。	○ SSH(※)の探究的な学びをベースに、中学校段階から教科横断的な、文理融合の探究的な学びに取り組む。 ※SSH（スーパーサイエンスハイスクール） 文部科学省の研究指定校。将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察、実験等を通じた体験的・問題解決的な学習など、先進的な理数教育に取り組む。
	知多	半田高校 (半田市)	普通コース 2学級 80人	普通科 8学級	起業家精神育成や海外進出促進など、先進的分野に果敢に挑戦する人材を育成。文理融合型探究活動の実践を目指す。	
	西三河	刈谷高校 (刈谷市)	普通コース 2学級 80人	普通科 10学級	「探究系」を設置し、自然科学と人文・社会科学の双方のアプローチから課題解決する文理融合型探究活動に取り組む。	
□-1 グローバル探究 実施校	海部	津島高校 (津島市)	国際探究 コース 2学級 80人	普通科 9学級	地元小中学校への英語出前授業や、国際交流活動などに取り組む国際理解コースを普通科に設置。	○ 国際理解コースで取り組んでいる国際交流等の取組をベースに、中学校段階から探究的な学びに取り組む。 ○ 国際探究科に学科改編し、国際バカロレア(※1)を踏まえた探究的な学びを実践する。 ○ 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。

※1 国際バカロレア：課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、世界150以上の国・地域の5,000校以上で実施。高校レベルのディプロマ・プログラム(DP)で、国際的に通用する大学入学資格(IB資格)を取得し、その成績によって世界の大学への入学が可能となる。

タイプ	地区	学校名 (所在地)	1学年学級数		現在の高校における取組、特色	導入のイメージ
			中学校	高校（現在）		
□ 音楽科設置校	名古屋	明和高校 (名古屋市東区)	音楽コース 1学級 20人	音楽科 1学級	音楽に必要な各分野の基礎的な力を定着させ、個々の専攻の力をより高度に伸ばし、音楽の専門家を育成。	○ 中学校段階から、充実した環境の中で個々の才能を最大限に伸ばし、現代社会とのつながりを意識したアーティストを輩出する。

＜第二次導入校＞ 2026年4月開校 ※タイプ欄の□囲み番号は、次ページ以降の各校導入プランの番号を示す

タイプ	地区	学校名 (所在地)	1学年学級数		現在の高校における取組、特色	導入のイメージ
			中学校	高校（現在）		
□ SSH実施校	西三河	豊田西高校 (豊田市)	普通コース 2学級 80人	普通科 9学級	地元の世界的企業や大学と連携したイノベーションを実現する人材の育成。	○ SSHの探究的な学びをベースに、中学校段階から教科横断的な、文理融合の探究的な学びに取り組む。 ○ SSHとAGHの取組をベースに、中学校段階から教科横断的な、文理融合の探究的な学びに取り組む。 ○ 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。
	東三河	時習館高校 (豊橋市)	普通コース 2学級 80人	普通科 8学級	SSHと、グローバルリーダーの育成を目指した「AGH(あいちグローバルハイスクール)(※2)」の両方に指定。	
□-2 グローバル探究 実施校	西三河	西尾高校 (西尾市)	国際探究 コース 2学級 80人	普通科 9学級	英語を高いレベルで使いこなす人材の育成を目指す「あいちスーパーイングリッシュハブスクール(※3)」に指定。	○ 国際交流や地元のことを学ぶ取組など、中学校段階からグローバルな探究学習に取り組む。 ○ 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。

※2 AGH(あいちグローバルハイスクール)：文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」の取組を継承した事業。旭丘高等学校と時習館高等学校の2校を指定。

※3 あいちスーパーイングリッシュハブスクール：英語教育の拠点校13校を指定し、英語を高いレベルで使いこなす人材の育成を目指す。西尾高等学校は、西尾・岡崎・幸田圏内13校の拠点校。

探究学習重視型 各校の導入プラン（イメージ）

1 SSH実施校（設置校：明和・半田・刈谷・豊田西・時習館）

（1）課題解決型学習

- 高校受験の影響を受けずにゆとりをもって中学の授業を行えることから、生徒自ら課題を解決する課題解決型学習に、中学での各教科の授業と総合的な学習の時間において、各教科で身に付けた資質・能力を生かし、課題解決にしっかりと取り組むことにより、学ぶ意欲や探究心を十分に引き出す。

（2）中高一貫した探究的な学び

- 高校のSSHで取り組んでいる大学・企業・研究所との連携や国際交流などの実績を生かし、中学校段階から、大学・企業・研究所への訪問や、高度な実験・実習体験、国際交流などに取り組み、興味・関心を高めるとともに教養を広める。
- 高校のSSHで取り組んでいる研究を、中学校段階から時間をかけて取り組み、「生徒がじっくりと研究テーマを探す」、「実験で試行錯誤する」、「テーマを途中で見直す」など、長期間にわたる自律的な探究学習を行う。
- 「中学生と高校生が話し合う」「お互いの発表を聞く」など、異校種間の取組を行う。

＜SSHの取組を中学校段階から取り入れるイメージ＞

中1	中2	中3	高1	高2	高3
課題解決学習により学ぶ意欲や探究心を引き出す			研究手法 (論証等) の学習		
			研 究		まとめ ・発表
大学・企業・研究所への訪問、高度な実験・実習の体験、国際交流等			大学・企業・研究所との研究、国際交流等		
高校の活動に参加			中学生への説明・発表等		

※具体的な教育内容や、内進生と外進生の混合時期については、今後検討。

（3）教科学習

- 中学校段階では、少人数・習熟度別指導により、基礎基本の定着を図りつつ、中学校と関連深い高等学校の学習内容に中学校段階からしっかりと触れることで、より深い学びに取り組む。
- 探究を深めるための先取りは行う。大学受験に特化して授業進度を早めることは目指さない。

（4）国際バカロレアの導入

- 時習館高等学校においては、AGHの取組を踏まえ、中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。

（参考）各高校における これまでのSSHの取組

- 自分でテーマを決めて研究する「課題研究」を高校1～3年まで取り組み、高校3年で成果発表を行っている。
- 国際交流や、大学・企業・研究所等との連携なども実施している。

高等学校	主な取組
明 和 SSH 第Ⅱ期 2017～2021 年度 の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究（1・2年）、言語探究・理科探究（3年） ・成果発表会（3年） ・夏の事業（講座・校外学習等） ・留学生の受け入れ・海外研修 ・グローバルサイエンス交流会（英語での研究発表）
半 田 SSH 第Ⅱ期 2018～2022 年度 の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・探究（1・2・3年） ・1・2年合同探究発表会（1・2年） ・知多地区生徒探究発表会（3年） ・国際交流（受け入れ・訪問） ・サイエンスコミュニケーション（講演会等）
刈 谷 SSH 第Ⅱ期 2016～2020 年度 の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究（1・2・3年） ・ポスターセッション（全学年） ・刈高サイエンスマッチ（クラス対抗競技会）（1年・2年） ・全校英語発表会（3年） ・研究施設訪問
豊田西 SSH 第Ⅱ期 2018～2022 年度 の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究（1・2・3年） ・SSH中間発表会（1・2年） ・SSH成果発表会（全学年） ・産学公（企業、大学・研究所、豊田市等）との連携（訪問研修・課題研究・野外調査等）
時習館 SSH 第Ⅲ期 2018～2022 年度 の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・探究基礎（1年）、探究（2・3年） ・SSH成果発表会（3年） ・海外研修（英国・マレーシア） ・SSH特別講演会 ・中学生科学実験講座、東三河海洋環境探究講座

2-1 グローバル探究実施校（設置校：津島）

（1）課題解決型学習

- 高校受験の影響を受けずにゆとりをもって中学の授業を行えることから、生徒自ら課題を解決する課題解決型学習に、中学での各教科の授業と総合的な学習の時間において、各教科で身に付けた資質・能力を生かし、課題解決にしっかりと取り組むことにより、学ぶ意欲や探究心を十分に引き出す。

（2）国際バカロレアの導入

- 国際理解コースで取り組んでいる国際交流等の取組をベースに、中学校に国際探究コースを設け、国際的な視点をもって探究的な学びに取り組む。
- 津島高等学校普通科の一部を国際探究科に学科改編し、国際バカロレアを踏まえた探究的な学びを実践する。
- 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。

＜国際バカロレア導入イメージ＞

年度	2023	2024	2025	2026	2027	2028
中学校			・開校(国際探究コース) ・MYP 導入(候補校)	→	(認定校)	
高校		開校等準備	・国際探究科 学科改編		日本語 DP 準備	・日本語 DP 導入

※MYP (Middle Years Programme) : 11 歳から 16 歳を対象。どのような言語も可能。

※日本語 DP (Diploma Programme) : DP は、大学入学資格の認定証書 (Diploma) を得るため、16 歳から 19 歳までを対象として 2 年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格が取得可能となるプログラム。原則、英語、フランス語又はスペイン語で行う必要があるが、日本語 DP では、一部の科目を日本語でも実施可能 (最低 2 科目 (外国語含む) は英語で実施)。

2025 年度入学の内進生が高校へ進学

※具体的な教育内容 (日本語 DP のうち英語で実施する科目等)、内進生と外進生の混合時期については、今後検討。

（3）教科学習

- 中学校段階では、少人数・習熟度別指導により、基礎基本の定着を図りつつ、中学校と関連深い高等学校の学習内容に中学校段階からしっかりと触れることで、より深い学びに取り組む。
- 探究を深めるための先取りは行う。大学受験に特化して授業進度を早めることは目指さない。

2-2 グローバル探究実施校（設置校：西尾）

（1）課題解決型学習

- 高校受験の影響を受けずにゆとりをもって中学の授業を行えることから、生徒自ら課題を解決する課題解決型学習に、中学での各教科の授業と総合的な学習の時間において、各教科で身に付けた資質・能力を生かし、課題解決にしっかりと取り組むことにより、学ぶ意欲や探究心を十分に引き出す。

（2）国際バカロレアの導入

- 「あいちスーパーイングリッシュハブスクール」で取り組んでいる国際交流や、地元のことを学ぶ「西尾学」などの取組をベースに、中学校に国際探究コースを設け、国際的な視点をもって、中学校段階からグローバルな探究学習に取り組む。
- 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。
- 国際バカロレアの導入時期や具体的な教育内容、内進生と外進生の混合時期については、今後検討する。

（3）教科学習

- 中学校段階では、少人数・習熟度別指導により、基礎基本の定着を図りつつ、中学校と関連深い高等学校の学習内容に中学校段階からしっかりと触れることで、より深い学びに取り組む。
- 探究を深めるための先取りは行う。大学受験に特化して授業進度を早めることは目指さない。

3 音楽科設置校（設置校：明和）

- 中学校段階から、充実した環境の中で、個々の音楽の才能を最大限に引き出す。さらに、音楽の専門的な技術だけでなく、広く教養を身に付け、現代社会とのつながりを意識したアーティストを輩出する。
- 具体的な教育内容については、今後検討する。
 - ・音楽コースのクラス編成
 - ・音楽コースと普通コースの生徒は、どの教科の授業を一緒に受けて、どの教科の授業を別に受けるのか など

探究学習重視型 中高一貫校の概要（教員配置・選考方法・学区等）

1 併設中学校の教員配置

- 中学校教員と、中学校の免許をもつ高等学校教員を配置する。
- あわせて、中高交流人事を進めるとともに、中高一貫校に勤務する教員を別枠で確保する。

2 入学生徒の選考方法

（1）適性検査

- 出題は、小学校学習指導要領の範囲内とし、思考力、判断力、表現力、課題解決力等を総合的に測る。

（2）面接

- 中高の6年間学び続ける意欲や志望動機、適性、コミュニケーション能力などを見る。

（3）調査書

- 調査書の内容や取扱いについては、小学校現場の負担も配慮しながら、今後検討する。

（4）その他

- 明和高校の併設中学校（音楽コース）は、実技検査を実施する。
- 抽選の導入の有無は、今後検討する。

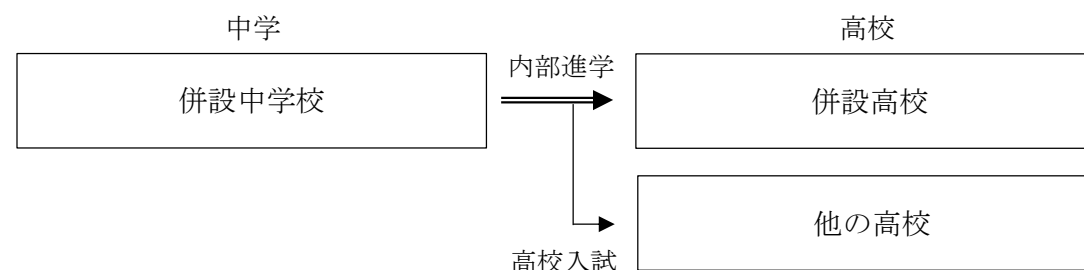
3 併設中学校の通学区域（学区）

- 内部進学する高校の学科に応じ、愛知県立高等学校の通学区域に準じて設定する。

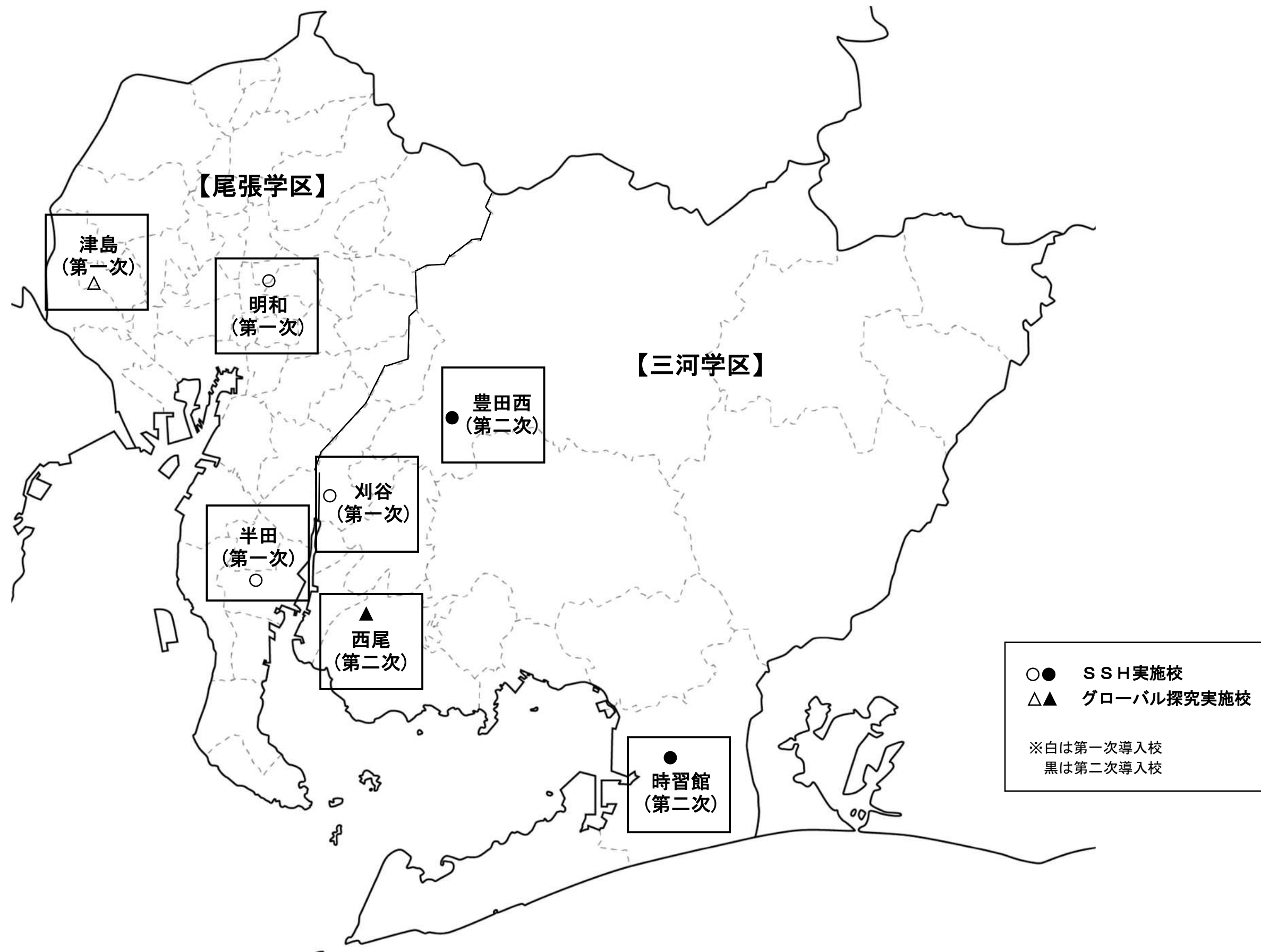
学校名	学 科	学 区
明 和	普通科	尾張学区
	音楽科	県内全域
津 島	国際探究科	県内全域
半 田	普通科	尾張学区
刈 谷	普通科	三河学区（調整区域として、大府市・豊明市・知多郡東浦町を含む）
豊田西	普通科	三河学区（調整区域として、日進市・愛知郡東郷町を含む）
時習館	普通科	三河学区
西 尾	普通科	三河学区

4 進路変更への対応

- 併設高校と異なる進路先を希望する生徒については、生徒が自分の個性にあった進路変更を可能とする。



探究学習重視型 中高一貫校の配置図



地域の教育ニーズ対応型・高度ものづくり型 中高一貫校の概要

＜第二次導入校＞ 地域の教育ニーズ対応型中高一貫校 2026年4月開校 ※タイプ欄の□囲み番号は、次ページ以降の各校導入プランの番号を示す

タイプ	地区	学校名 (所在地)	高校 学級数 (現在)	現在の高校における 取組、特色	中高一貫教育の 仕組み	導入のイメージ
□ 1 不登校経験のある生徒の能力、可能性を引き出す学校	尾張	日進高校 (日進市)	普通科 3学級	学び直し、少人数、個に応じた指導を学びの柱として、社会で活躍する自覚と誇りをもった生徒を育成。通級による指導を導入。	併設型 中高一貫校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間総授業時間数を低減できる「不登校特例校」(※1)として設置し、不登校の生徒が、高校卒業まで安心してゆとりをもって学ぶことができる中高一貫校。 ○ 1学年1学級(40人)。 ○ 中学校・高校同時スタート。
□ 2 外国にルーツのある生徒の能力、可能性を引き出す学校	西三河	外国人生徒選抜 実施校(※2)を中心に検討	—	外国人生徒選抜実施校として、外国人生徒を取り出した日本語指導や、保護者への通訳など、外国人生徒の学習活動や学校生活を支援。	併設型 中高一貫校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国にルーツのある生徒が、教科学習にゆとりをもって学ぶことができる中高一貫校。 ○ 1学年1学級(40人)。 ○ 母語・母文化にも焦点を当てた教育プログラムを、大学等と連携して研究。 ○ 特別の教育課程による日本語指導(※3)活用。
□ 3 地域を支える人を育てる学校	海部	美和高校 (あま市)	普通科 5学級	「美和高地域連携センター(美和高マインド)」を設立し、地域の役所等と協議を進め、高校生として地域に貢献できることを実践。	あま市・大治町等近隣市町村と美和高校による連携型中高一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域での様々な活動を通して、地域にとってかけがえのない高校を目指す中高一貫校。 ○ 中高間の教育課程の接続・連携や教員・生徒間・地域・大学・専門学校間の交流を強化。キャリア教育の推進、探究科目の増加など高校の魅力化。

(※1) 不登校特例校：不登校の実態に応じて特別の教育課程を編成することができる学校。「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律(2016年12月施行)」により、全国で導入が進んでいる。

(※2) 外国人生徒選抜実施校：外国籍をもち、小学校4年以上に編入した者又は入国後の在日期間が6年以内の者が出願対象。西三河地区では、衣台・安城南・豊田工科・知立の4校で実施。

(※3) 特別の教育課程による日本語指導：学校生活や授業の理解が必要となる日本語を、教育課程の一部の時間を替えて指導する形態。現在は小・中学校のみであるが、2023年度から高校も可能となる予定。

＜第二次導入校＞ 高度ものづくり型中高一貫校 2026年4月開校 ※タイプ欄の□囲み番号は、次ページ以降の各校導入プランの番号を示す

タイプ	地区	学校名 (所在地)	高校 学級数 (現在)	現在の高校における 取組、特色	中高一貫教育の 仕組み	導入のイメージ
□ 4 AI(※4)・データサイエンス(※5)に興味・関心をもつ生徒の能力、可能性を引き出す学校	名古屋	愛知総合工科 高校 (名古屋市千種区)	工業科 9学級	本県唯一の理工科を設置し、理数工学に関する高度で実践的な知識や技術を育成。本科3年間の上に2年間、より専門性の高い技術・技能を習得できる専攻科を設置。	併設型 中高一貫校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工科高校の施設と教員を生かした中高一貫教育。 ○ 1学年1学級(40人)。 ○ 中学校段階からものづくりに触れ、中高6年間、専攻科を含めると8年間で、DX(デジタルトランスフォーメーション)(※6)をリードする人材を育成。

(※4) AI：Artificial Intelligenceの略。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム、あるいは人間が知的と感じる情報処理・技術。

(※5) データサイエンス：データを軸として、情報科学や統計などのアプローチから、有益な知見やビジネス上の便益をもたらすよう働きかける学問。

(※6) DX：将来の成長、競争力強化のために、新たなデジタル技術を活用して、内部エコシステム(組織、文化、従業員)の変革を牽引しながら、新たなビジネスモデルを創出・柔軟に改変すること。

地域の教育ニーズ対応型 各校の導入プラン（イメージ）

1 不登校を対象とした中高一貫校（設置校：日進）

（1）学級規模・生徒の受け入れ等

- 不登校生徒の実態に配慮した「特別の教育課程」を編成する「不登校特例校」として設置する。
- 併設中学校は1学年1学級（40人）とする。
- 中学校・高校同時スタート。
- 不登校児童生徒で併設中学校へ登校意欲のある児童生徒を、受け入れ対象とする。
- 不登校の状況に合わせて受け入れるため、近隣市町村の小中学校や教育支援センター（適応指導教室）と連携して、併設中学校への学校体験や本人・保護者との面談などにより併設中学校での受け入れの可否を決定する。適性検査は行わない。
- 不登校の状況に合わせ、在籍生徒数が募集人員の範囲内であれば、年度途中でも併設中学校へ転入することは可能とする。

（2）教育内容

- 併設中学校の具体的な教育内容は、他県の「不登校特例校」の事例^{※1}を参考にし、今後検討する。
例：年間総授業時間数の低減、授業時間の短縮、遅い授業開始時間 等
- 高校では、学び直し、少人数、個に応じた指導を学びの柱とし、通級による指導を導入する。また、単位制への改編や、通信教育による単位認定を検討する。
- メタバース・VRを活用した教育支援を検討する。
- 不登校生徒へきめ細かな支援を行うため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教員志望の大学生、キャリア教育コーディネーター^{※2}の常駐化を検討する。

- ※1 不登校特例校の他県の例（八王子市立高尾山学園小学部・中学部（全国初））
- ・年間30日以上欠席があり、不登校特例校へ登校意欲のある児童生徒が対象。
 - ・登校支援室による面談、適応指導教室に入級、特例校の授業見学・体験を経て、転入学を許可。
 - ・適応指導教室の登校や活動状況により、年10回の転入を受け入れ。
 - ・年間の総授業時間数は760時間程度（標準授業時間数は1,015時間）。
 - ・週当たり19時間（標準は週29時間）。授業開始時間は午前9時30分（他校より遅い）。
 - ・ベーシックコース（個に応じた指導）とチャレンジコース（一斉授業）から選択。
 - ・体験的な学習を年間120時間程度に充実（標準授業時間数は50～70時間）。

※2 キャリア教育コーディネーター：インターンシップの受け入れ先を開拓するなど、学校と企業等との橋渡しを行う。

（3）学区

- 愛知県立高等学校の通学区域に準じて、尾張学区（調整区域として、豊田市・みよし市を含む）とする。

2 外国にルーツのある生徒を対象とした中高一貫校

（設置校：西三河地区の外国人生徒選抜実施校から中心に検討）

（1）学級規模・生徒の受け入れ等

- 併設中学校は1学年1学級（40人）とする。
- 外国にルーツがあり併設中学校へ登校意欲のある児童生徒を、受け入れ対象とする。
- 併設中学校への学校体験や本人・保護者との面談、抽選（希望者多数の場合）などにより併設中学校での受け入れの可否を決定する。適性検査は行わない。
- 日本へ入国した状況に合わせ、在籍生徒数が募集人員の範囲内であれば、年度途中でも併設中学校へ転入することは可能とする。

（2）教育内容

- 外国にルーツのある生徒が、複数の言語や文化、価値観の下に生まれ育った経験や強みを活かし、グローバルな視点を持って社会で活躍できるよう、母語・母文化にも焦点を当てた学習活動に取り組む、外国にルーツのある生徒への教育プログラムを、大学等と連携して研究する。
- 特別の教育課程による日本語指導の活用や、取り出し授業などにより、生徒の状況に応じてきめ細かに対応する。
- 外国にルーツのある生徒に学習活動や学校生活を支援するため、スクールソーシャルワーカーや教員志望の大学生、キャリア教育コーディネーターの常駐化を検討する。
- 特別免許状の活用など、日本語を指導できる教員の確保について検討する。
- 中学校段階では、外国にルーツのある生徒のみとなるため、併設高校や地元中学校との交流を積極的に行う。

（3）学区

- 愛知県立高等学校の通学区域に準ずる。

高度ものづくり型 導入プラン（イメージ）

3 地域を支える人を育てる中高一貫校（設置校：美和）

（1）連携の仕組み

- あま市・大治町など、近隣市町村と美和高等学校による連携型教育を導入する。
- 美和高等学校では、連携型教育による高校と地元中学校の連携強化の利点を生かし、新たな連携型中高一貫教育のタイプとして、人口増と人口減が混在する都市近郊での中高の連携・接続のモデルを目指す。
- 連携する中学は、市町村で各1校とする。
- 連携する中学校以外は、美和高等学校と連携した活動に参加を希望する生徒も対象とする。

（2）教育内容

- 美和高校の地域連携の実績を生かし、中高間の教育課程の接続・連携や教員・生徒間・地域・大学・専門学校間の交流を強化する。教育課程の接続・連携や交流の内容については、市町村教育委員会や中学校と今後検討する。
連携・交流の例：ICTを活用した遠隔合同授業・授業公開、地域の指導者による合同部活動 など
- 地域や大学と連携して、中高6年間の発達段階に応じて継続したキャリア教育を推進する。
- 高校では、探究の選択科目を増やすなど、中高一貫した探究的な学びを進める。また、高校生の地域活動を単位認定することや、普通科を新しいタイプの普通科※1へ改編することを検討する。

※1 新しいタイプの普通科：高校の特色化・魅力化に向けて、2022年度から「学際領域学科※2」や「地域社会学科※3」等、普通科以外の学科が設置可能となった。

※2 学際領域学科：学際的・複合的な分野や新たな領域の最先端の学びを重点的に取り組む学科。

※3 地域社会学科：地域社会における課題や魅力に対して実践的な学びを重点的に取り組む学科。

（3）高校の入学者選抜

- 連携する中学校の連携型中高一貫教育校にかかる入学者選抜※4や、連携中学校以外で美和高等学校の活動に参加した場合の特色選抜の仕組みを、今後検討する。

※4 連携型中高一貫教育校にかかる入学者選抜：学力検査を行わず、面接と中高連携のもとに行われる「学習のまとめ」の発表により行う。実施時期は、他の入学者選抜より早い。

4 AI・データサイエンスに興味・関心をもつ生徒の能力、可能性を引き出す学校（設置校：愛知総合工科）

（1）学級規模・生徒の受け入れ等

- 併設中学校は、1学年1学級（40人）とする。
- 入学者の選考方法は、今後検討する。

（2）教育内容

- 中学校段階からものづくりに触れ、中高6年間、専攻科を含めると8年間で、DXをリードする人材を育成する。
- 中学校段階では、愛知総合工科高校の施設と教員を生かし、AIやデータサイエンスを体験的に学び、コンピュータサイエンスへの興味・関心を高める。

<各教科の取組例>

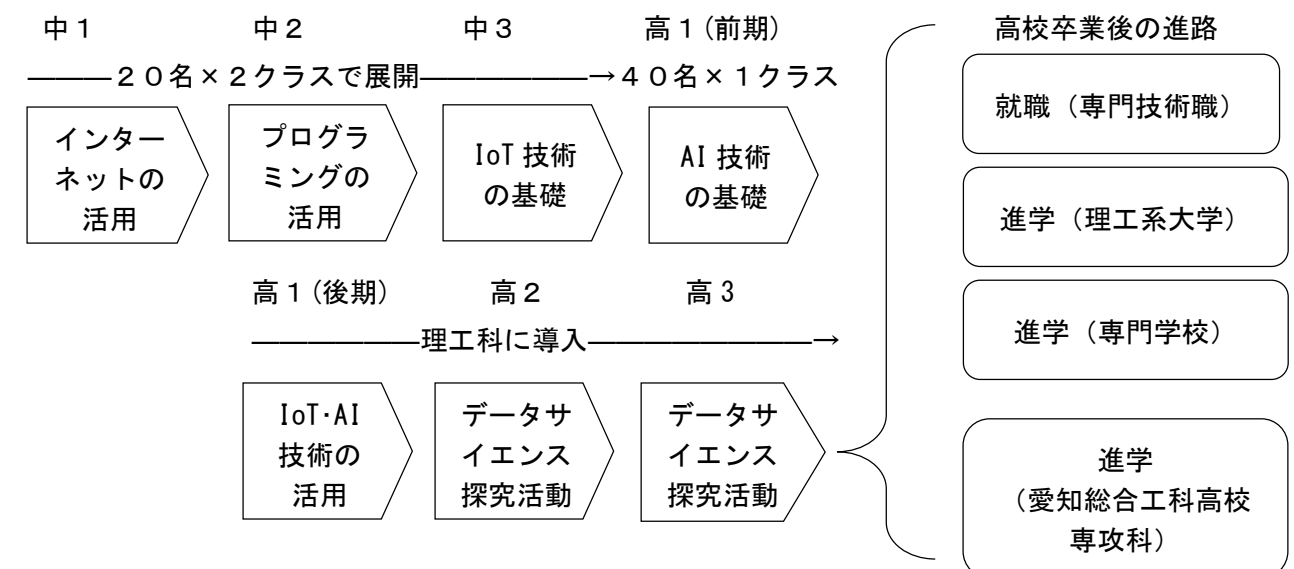
教科	取組例
技術・家庭科	インターネットやプログラミングなど、コンピュータサイエンスを学ぶ。
総合的な学習の時間	国や地方公共団体などが提供するオープンデータ等のビッグデータを活用した探究的な学びに取り組む。
数学・理科	データサイエンスに関連した授業を展開する。

- 高校では、1年後期から理工科へ進学してAIやIoTについて専門的に学び、2年から3年にかけてデータサイエンスの研究（課題研究）にしっかりと取り組む。

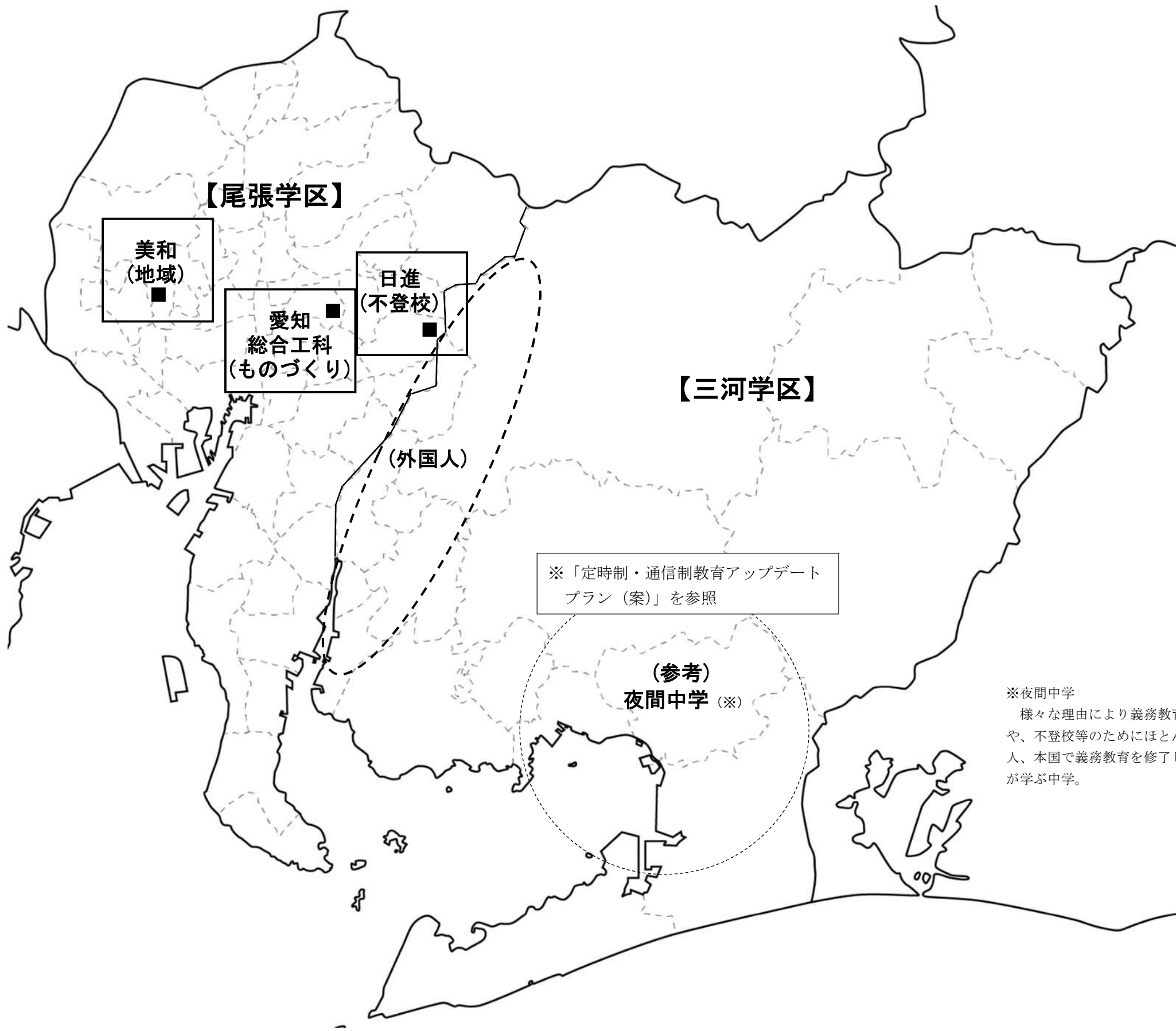
（3）学区

- 愛知県立高等学校の通学区域に準じて、県内全域とする。

<中高6年間のイメージ>

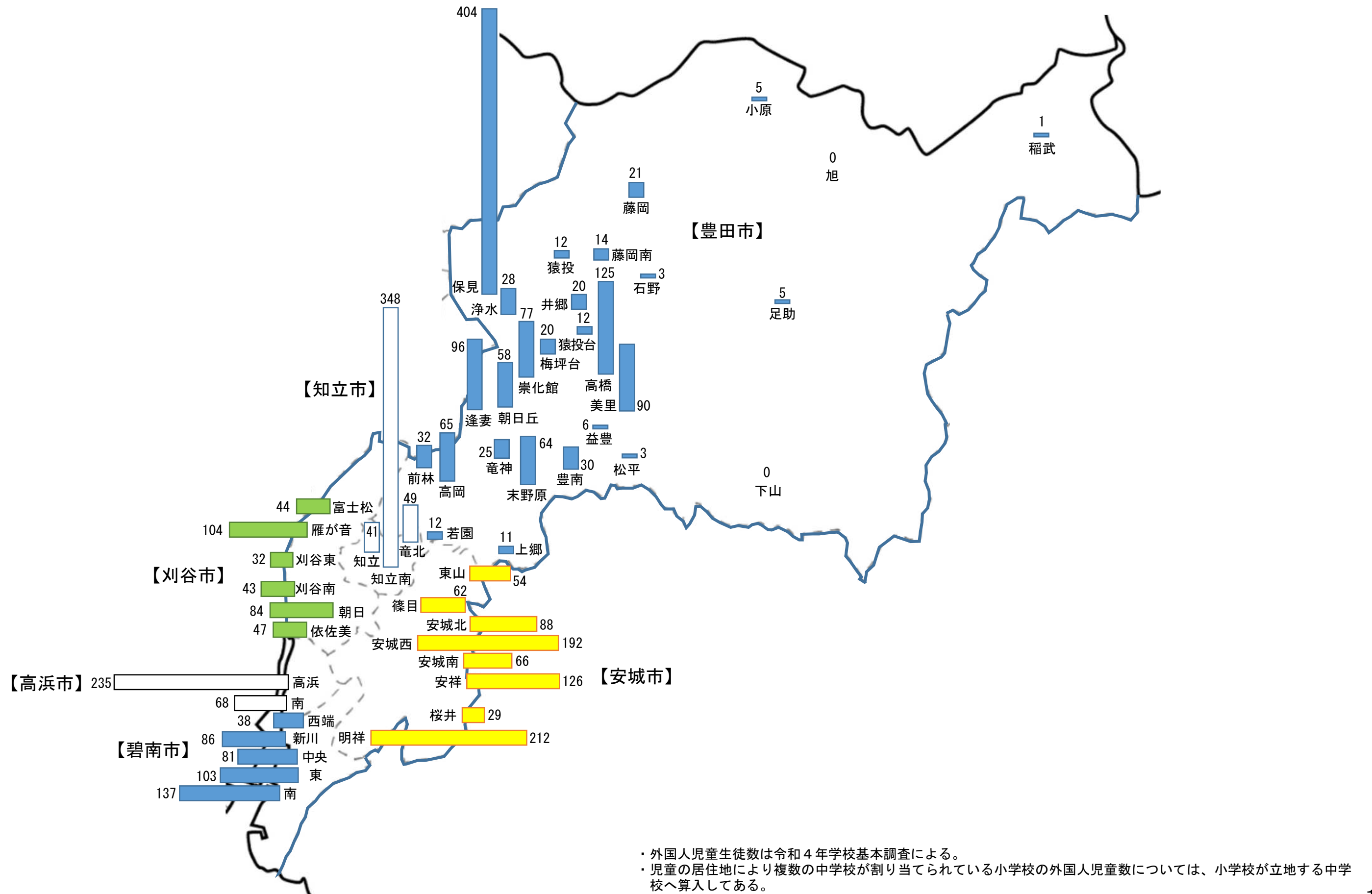


地域の教育ニーズ対応型・高度ものづくり型 中高一貫校の配置図



※夜間中学
様々な理由により義務教育を修了できなかった人や、不登校等のためにほとんど学校に通えなかった人、本国で義務教育を修了していない外国籍の人などが学ぶ中学。

参考：中学校校區別外国人児童生徒数（豊田市、刈谷市、知立市、安城市、高浜市、碧南市）



検討の経過・今後の進め方

1 検討の経過

年月日	検討内容
2022年 4月6日	○「県立高等学校への併設型中高一貫教育制度導入の可能性の検討について」発表 ・第一次導入候補校を明和・津島・半田・刈谷の4校として導入の可能性を検討 ・第二次以降の導入候補校を検討 ・「地域密着型」の導入についても検討
4月26日	○第1回「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」（親会議） ・「中高一貫教育導入検討部会」の設置について承認
5月13日	○第1回「中高一貫教育導入検討部会」（部会） ・第一次導入候補校に係る5つの論点を検討。 ①通学区域、②教育課程、③高校での内進生と外進生の混合時期、④併設中学校の教員配置、⑤入学生徒の選考方法
6月9日	○第2回「中高一貫教育導入検討部会」（部会） ・第一次導入候補校のねらいや特色について検討 ・第二次以降の導入候補校の方向性について検討
7月14日	○第3回「中高一貫教育導入検討部会」（部会） ・第一次導入候補校4校に併設型中高一貫教育制度を導入することについて、導入する方向で取りまとめ
7月25日	○第2回「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」（親会議） ・部会での検討結果を踏まえ、第一次導入候補校4校に導入する方向で取りまとめ
7月26日	○併設型中高一貫教育の第一次導入校の発表 （主な発表内容） ・明和・津島・半田・刈谷高等学校の4校で、2025年4月に併設中学校を開校することを決定
9月12日	○第4回「中高一貫教育導入検討部会」（部会） ・第二次導入候補校について検討 ・第一次導入校の具体的な検討の進め方について検討
10月24日	○第5回「中高一貫教育導入検討部会」（部会） ・第二次導入候補校（地域教育ニーズ対応型等）について検討
11月10日	○第6回「中高一貫教育導入検討部会」（部会） ・「中高一貫教育導入方針（案）」について検討
11月24日	○第3回「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」（親会議） ・「中高一貫教育導入方針（案）」について検討
11月28日	○「中高一貫教育導入方針（案）」の発表

2 今後の進め方

（1）ワーキンググループにおける具体的な検討

- 導入校ごとに、実務者によるワーキンググループを設置し、併設中学校の教育内容や、教員配置、入学生徒の選考方法などを検討する。
- 適性検査の詳細な内容は、ワーキンググループを別途設けて検討する。
- ワーキンググループの意見を取りまとめ、必要に応じて部会で検討する。
- 高校の教育課程や、内進生と外進生の混合時期は、導入校が、各校の特色を踏まえて別途検討する。

（2）児童、保護者への説明

時 期	説 明 内 容
2023年度 春～夏	適性検査の概要を公表
2023年度 秋	第一次導入校説明会の開催 （主な内容） ・各校の教育内容 ・入学生徒の選考方法（日程等）
2023年度 秋～冬	適性検査のサンプルを公表